

初期消火箱の取扱い方法

初期消火について

火災が発生した時に大事なことは“火災が大きくなる前に消火する”ことです

初期消火の方法は「消火器」「バケツリレー」等がありますが、今回は消火能力が高い「初期消火箱」の取扱い方法を行います。

皆さんのがお住まいの地域には、火災が発生した時に初期消火活動を行えるように「初期消火箱」が設置されています。

特に、**大地震で火災が発生した場合**には、消防隊等は平常時のように“迅速に駆けつける事が困難になります。地域の皆さんのが協力**《共助》**して、災害による被害を最小限**《減災》**にできるよう「初期消火箱の取扱い方法」を覚えましょう！

初期消火箱とは？



【初期消火箱の外観】



【初期消火箱の中】

ポイント

- 「初期消火箱」は、皆さんの地域に設置されています。設置場所は、自治会・町内会の地図などにも掲載されていますが、日頃から、「初期消火箱や消火栓がどこにあるか？」散歩の時や通勤途中などで、チェックしておくと“いざ”という時に役に立ちます！
- 震災時に地域を守るのは、地域の皆さんです。日頃から、隣近所で助け合える関係をつくる事が大切です！

初期消火箱の中には、こんな道具が入っています！



① 消火栓力ギ（新型消火栓用）

② 消火栓力ギ（旧型消火栓用）

消火栓の蓋を開けたり、消火栓の「蛇口」を回す時に使います。

③ 消火栓力ギ

こちらの「消火栓力ギ」は、蓋開け専用のものです。

④ 縮小媒介

消火栓の放水口（水の出口）に取り付けて、ホースを結合するための金具です。【ホースの口径が 65 mm の場合は使用しません。】

⑤ 筒 先

ホースの先端に結合して、これを持って放水を行います。

⑥ ホース（口径：65 mm・50 mm・40 mm）

消火用のホースです。1本 20 メートルの長さがあり、3本結合すると 60 メートル先まで放水することができます。

ポイント

「初期消火箱」の中に入っている道具は、少し違う物もありますが、基本的な使用方法は同じです。

【例 1】消火栓力ギには、①新型用②旧型用と 2 種類あります。（使用方法は別記）

【例 2】ホースの口径は、65 mm・50 mm・40 mm の 3 種類があります。口径が小さいほど、消火活動は容易になります。

初期消火栓の取扱い方法

○ 消火栓

消火栓には、「新型消火栓」と「旧型消火栓」の2種類があります。通常は道路や歩道に設置されています。目印は、黄色に塗装された蓋です。(標識柱が立っている物のあります。)



【新型消火栓】 *蓋のデザインに違いがあります。 【旧型消火栓】

◇ 新型消火栓の取扱い方法（下図参照）

- 《手順1》 消火栓の蓋を開ける方法は、「消火栓カギ①」の部分を「消火栓①」のどちらかの穴に差し込み、テコの要領で蓋を持ち上げて緩める。
- 《手順2》 「消火栓カギ②」の部分を「消火栓②」に差し込み蓋を引き上げる。
- 《手順3》 「消火栓③」のジョイント部を中心に回転させながら蓋を開ける。

【消火栓カギ】



【消火栓】



《手順1》



《手順2》



《手順3》

ポイント

- 消火栓の蓋は重い(約 30kg)ので腰等を傷めないように気を付けてください。
- 蓋を開けたら目立つ物を置いて「転落防止措置」を図ってください。

《手順4》 「消火栓の放水口」に「縮小媒介」を結合して、「消火栓カギ③」の部分を「消火栓の蛇口」に差し込む。(ホースが65mmの場合は、縮小媒介は使用しない。)

《手順4》 ホースの「メス金具」を「縮小媒介」に結合する。

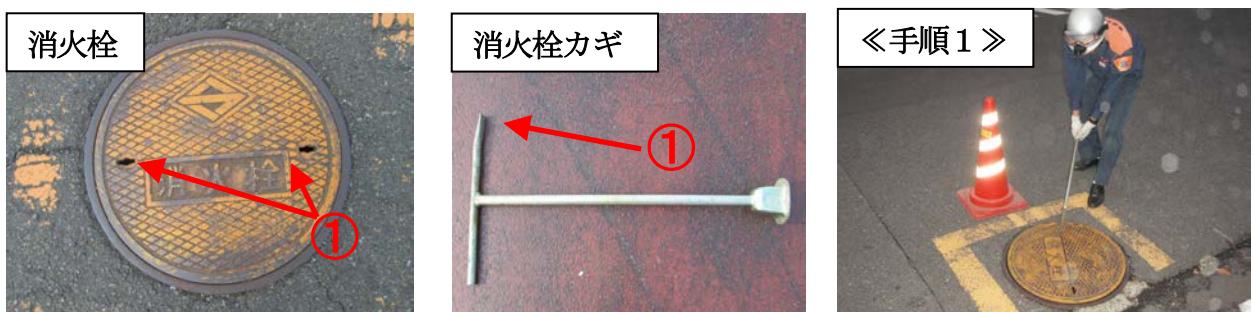
《手順5》 「消火栓カギ」を時計回りに回転させると開き、逆回転で閉まる。(水道と逆)



◇ 旧型消火栓の取扱い方法（下図参照）

《手順1》 消火栓の蓋を開ける方法は、「消火栓カギ①」の部分を「消火栓①」の穴に差し込み、蓋を上げながら自分の方向へ引き蓋を開ける。

* 蓋解放後は、新型消火栓の《手順4・5・6》と同様です。



ポイント

- 「**旧型消火栓**」は、「**新型消火栓カギ**」で代用可能です。
- 「**新型消火栓**」を「**旧型消火栓カギ**」で開けるには、「**消火栓カギ①**」の部分を活用して、**新型消火栓取扱い手順**のとおり操作すると開けることが出来ます。
- 「**ホース**」や「**縮小媒介**」を結合した際は、確実に結合されているか？ “必ず” 引っ張って確認してください。(結合部が外れると事故につながります)

○ ホースの取扱い方法（下図参照）

◇ ホースを運ぶ方法

《手順1》 「メス金具」を進行方向に向けて、脇に挟み込みしっかりと保持して搬送する。

◇ ホースの延ばす方法・結合する方法

《手順2》 「メス金具」の近くを踏んで、「オス金具」を両手で持ち、二重巻きホースを前に転がすように延長します。

《手順3》 「メス金具」を「オス金具」に差し込み、ホースを引いて結合状態を確認する。



《手順1》



《手順2》



《手順3》

○ 筒先の取扱い方法（下図参照）

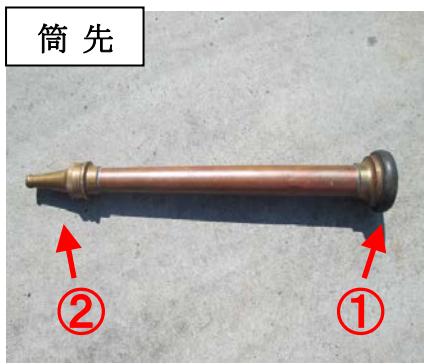
◇ 筒先を結合する方法

《手順1》 ホースの「オス金具」を踏んで「筒先①」の部分を差し込み、「筒先」を引いて結合状態を確認する。

◇ 筒先を構える方法（放水する体制）

《手順2》 「筒先①」の近くと「筒先②」に近くをしっかりと保持し、両足を開いて前傾姿勢で構える。

* 消火栓・ホース・筒先などの準備が完了したら放水します。



筒先



《手順1》

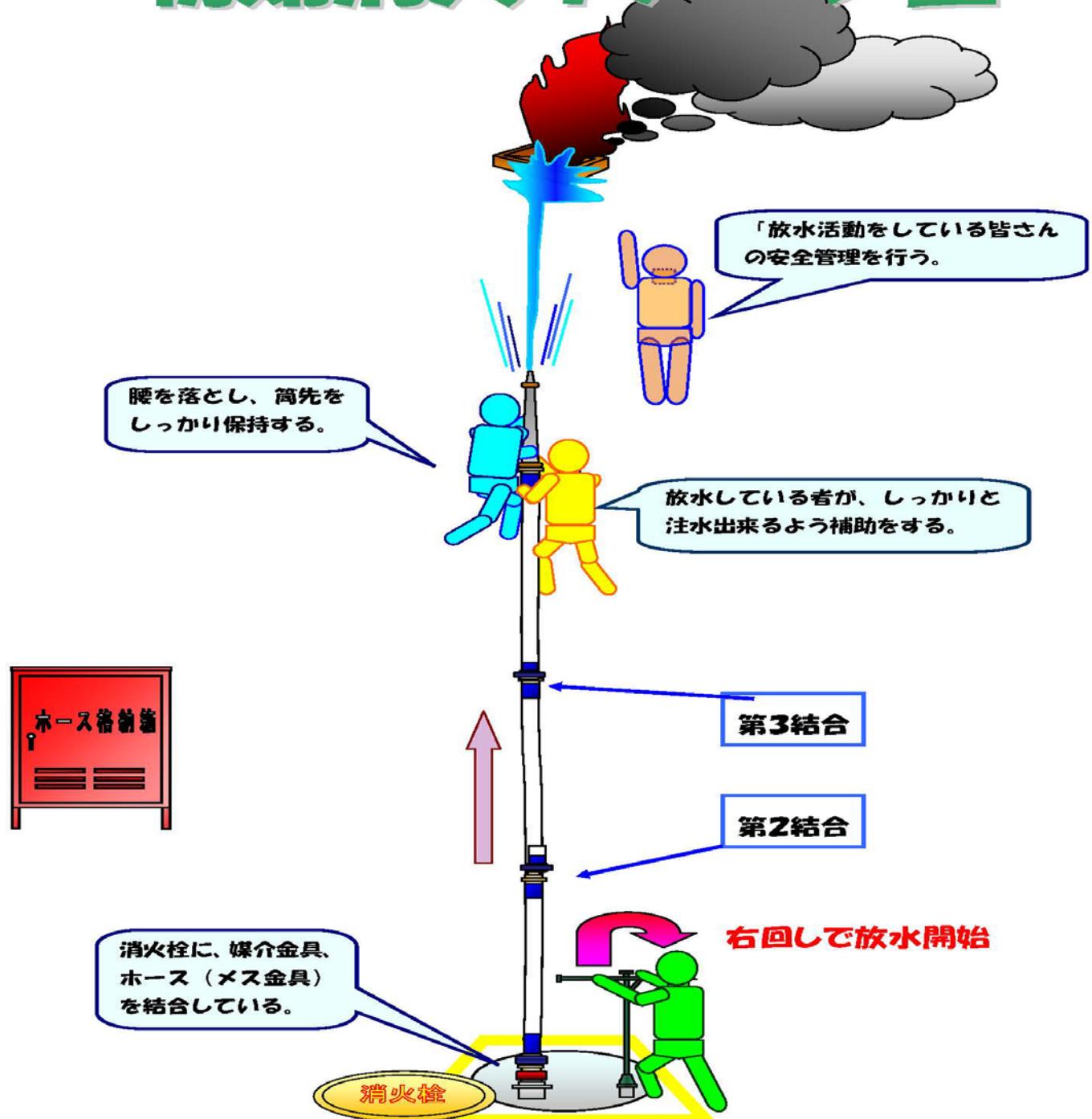


《手順2》

ポイント

- 放水が始まると「筒先」が強い力で後方に引かれます。必ず2人以上で協力して保持してください。（筒先を離してしまうと危険です！）
- 放水活動を行う時は、建物内部へは進入せず、建物の外から放水しましょう！ “無理をせず、安全に活動することが大切です。”

初期消火イメージ図



ポイント

- 放水活動する行う時は、可能な限り多くの人数で活動しましょう！地域の皆さんと力を合わせて、被害を最小限に食い止めましょう！
- 火災現場は、多くの危険が潜んでいます。全員で活動するのではなく、必ずリーダーを決めて安全管理を行うようにしましょう！
- 実際の火災現場で、初期消火をスムーズに行うには、日頃の訓練が大切です。地域の防災訓練等で、初期消火の方法を確認することが大切です。
消防職員や消防団員がご指導に伺いますので、気軽に瀬谷消防署までご連絡ください。

瀬谷消防署 ☎・fax : 045 (362) 0119